

事務事業の 見直し・効率化について

伊丹市行財政審議会

これまでの事務事業の見直しについて

これまで現・行財政プランの取り組み項目の一つとして、事務事業の抜本の見直しを実施してきたことにより、事務事業の内容について一定改善が進んできました。

しかしながら、一部の取り組み項目については、当初計画通りに達成できていない積み残しがあります。

今後、社会情勢の変化や、技術の進歩等により事務事業を実施するうえでの環境が変化していることを踏まえ、新たな事業を実施するうえで、限りある財源を効果的に配分しようとする、既存の各事務事業について再度見直しを行っていく必要があります。

<現・行財政プランにおける事務事業の見直し例>

◎事務事業の総点検による見直し

- ・市債の公的資金補償金免除繰上償還の実施
- ・ことば文化都市伊丹特区推進事業の見直し
- ・家庭ごみ等収集運搬業務委託事業の契約見直し
- ・児童くらす休日開所事業の見直し
- ・法規事務研究会開催に係る食料費廃止
- ・菊花展事業の見直し
- ・伊丹能事業補助の見直し
- ・阪神北広域こども急病センター運営負担金の見直し
- ・違法駐車防止啓発事業の見直し 他

<現・行財政プランにおける事務事業の積み残し例>

◎事務事業の総点検による見直し

- ・借地料の見直し
- ・サンシティホールパイプオルガンのあり方見直し
- ・地域生活総合支援施設運営補助金の見直し
- ・健康手帳の配付の見直し
- ・日雇医療助成事業の見直し
- ・クローバーコンサートのあり方
- ・テクノフロンティア賃料補助の見直し
- ・高齢者雇用奨励金の見直し 他

社会情勢等の変化、積み残し項目の解消等を踏まえ、事務事業を再度見直す必要がある。

今後の事務事業の見直し・効率化について

＜事務事業の見直し・効率化の基本的な考え方＞

◇事務事業に対する検証方法

PDCAサイクルを行い、事業実施の根拠、手法及び効果について不断の検証を行い、事務事業の見直しを行います。特に、類似事業の統廃合、市民ニーズにあった事業内容への変更などについては、重点的に見直しを行います。



(参考: 主な事務事業の見直し・効率化の例)

- 技術進歩に伴う事務事業の効率化 (例: LED製品の普及に伴う光熱水費、CO2削減)
- 事業に対する積極的な財源確保(例: 花火大会へのふるさと寄附活用) など

最少の経費で最大の効果が挙がるよう、その目的、必要性、公益性及び代替性の有無の観点から税の使い方について市民とともに考え、不断の見直しを行い、新・行財政プランに随時追加していきます。

事務事業及び施策の行政評価の結果を人員配置や予算編成などの資源配分に的確に反映します。